

質問の件名及び質問の趣旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>1 男女共同参画の推進から見た女性の労働について（25分）</p> <p>今年3月に作成された「つるがしま男女共同参画推進プラン（第4次）」で、つるがしま男女共同参画推進プラン（第3次）までを振り返って課題をまとめています。それによればDVという言葉の認知度は上がり相談件数が増えている以外は、一様に関心が低く、特にプランの核である「男女の別なく個性と能力が発揮できるまち」の重要度は2.5%と低い状況だったことが報告されています。</p> <p>男女共同参画社会の理念であります、“共に責任を担うべき社会”に向けては、就業の平等を実現することが大きな役割を担うものと考えております。</p> <p>働く場という面から社会状況を見ると、労働環境の悪化と雇用不安のため出生率は落ち込み、少子化と高齢化により2005年から人口減少が始まっています。2007年夏頃よりのアメリカ合衆国のサブプライムローンに端を発した世界金融危機以降、日本経済は今も不景気が続いています。</p> <p>この数年は失業率水準が4～5%で安定しているとはいえ、仕事がなく、仕事を探している市民は増えていると推察します。特に2000年以降、労働者の給与は減少傾向をたどり、終身雇用制度の崩壊、契約社員や派遣社員が増えて労働市場の流動化が進み、ワーキングプアを生み出しているのが現実です。</p> <p>若者の就職難だけでなく、働く場を確保していくことは最重要課題であることを踏まえまして、男女共同参画の視点から質問いたします。</p> <p>(1) 鶴ヶ島市の女性年齢別労働力率について ア 鶴ヶ島市の女性労働力率の傾向 イ 労働力率向上のための対策は</p> <p>(2) 女性のキャリア形成支援について ア 就業に向けて イ 起業に向けて</p> <p>(3) 男女共同参画推進プランの目標について ア 鶴ヶ島市管理職職員における女性の割合 イ 男女共同参画推進プランの課題</p>	市長

質問の件名及び質問の趣旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>2 いじめや暴力に対する予防教育の取り組みについて(20分)</p> <p>「社会に出て自立していける子どもを育てる」のが、本市の教育の基本方針です。そのためには、個人の能力と公共の精神を基盤とする自立した子どもを育てるための様々な視点からの条件整備が必要です。</p> <p>特に市民生活をするための能力である共生、社会性、規範、公共、健康等は健全な学校生活の上で培われていきます。しかし、その学校での子どもたちは、コミュニケーションの力がなくなっているようにみうけられます。これは一概に学校だけの問題ではなく、家庭、地域の大人社会の問題がそっくり反映しているのだといえます。</p> <p>地域ぐるみで子どもを育てることを基本に学校応援団をはじめとする地域の人材が子どもたちをとりまく環境をより豊かなものにしていきます。</p> <p>10月、教育長からこれまで伝統的に行ってきたことをきちんと評価していくこと、最大の課題は「学校の自立」であるとのこと説明がありました。</p> <p>真摯に丁寧に進めることに異論はありませんが、いじめや暴力で学校になじめないケースや様々な問題の根に子どもたちの社会性の未熟さが指摘されている事態にはこのままでいいのでしょうか。問題が起こってからの対処療法的な対策だけではなく、学校における予防的、開発的な指導の重要性も指摘されています。学校には既に、道徳や保健体育といった心身の健康を学ぶ授業がありますが、子どもの自殺を食い止めようと、文部科学省は7日、「小中高校に自殺予防教育を導入する方針を決めた」との報道も目撃しました。</p> <p>子どもは、毎日の生活時間の多くを学校で過ごしています。子どもの SOS に気づく校内の体制はできているのでしょうか。</p> <p>(1) いじめや暴力に対する予防教育の取り組みについて ア 近隣自治体の取り組み状況 イ 本市での取り組み状況</p> <p>(2) 校内の体制について ア 未然に防ぐ予防活動 イ 危険に早く気づき対応する危機対応 ウ おきてしまったときの事後対応</p>	<p>市長 教育委員会委員長</p>